

生物学

講師名 岩田 朋巳

ねらい

必要な生物学の基礎を習得してもらうこと。

高校で履修している学生には高校生物の復習をしてもらうこと。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 細胞小器官のはたらき、原核生物と真核生物、顕微鏡の操作方法 2. 光学顕微鏡の使い方、マイクロメーターの使い方、代謝（同化と異化の違い） 3. 酵素（特徴、組織、性質）、光合成と呼吸 4. ミトコンドリアと葉緑体の起源、細胞の形と大きさ、単細胞生物と多細胞生物 5. 遺伝子の本体である DNA, DNA の構造、血液の成分とその働き 6. 赤血球のはたらき、血液凝固のしくみ、血管系 7. 心臓の収縮の調整、興奮の伝導と伝達、中枢神経、自律神経 8. 自律神経系のはたらき、ヒトのホルモン（内分泌腺、働き、血糖量の調整）	16	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 生物学	川合進二郎・矢尾和彦 ・高坂利美・合場千佳子	医歯薬出版株式会社

化学

講師名 大石 悦子

ねらい

化学は物質の性質、構造、変化に関する学問であり、歯科衛生士は医療の現場で様々な歯科材料等の物質を扱う立場にある。この講義では、化学の基礎知識を習得するとともに、歯科医学と化学の関連性を学んでいくことをねらいとする。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 物質とは（物質の分類・構造、原子の電子配置） 2. 物質とは（元素の周期律、物質質量、化学結合） 3. 気体とは（気体のルール、空気は何から） 4. 物質の溶解（濃度表示、コロイド、酸・アルカリ） 5. 酸化・還元とは（酸化と還元、金属のイオン化傾向） 6. 化学反応（化学反応の速さ、化学平衡） 7. 有機化合物（命名法、異性体、有機化合物の反応） 8. ヒトを形づくる元素（糖質、アミノ酸、脂質、核酸）	16	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 化学	鶴房 繁和ほか	医歯薬出版株式会社

臨床心理学

講師名 松岡 紘史

ねらい

臨床心理学とは、人間の行動や心的過程を科学的に探求し、それを応用する学問である。

本講義では、臨床心理学の基礎分野となる心理学の領域の中から代表的なテーマをとりあげ概説することによって、心理学の基本的発想を学ぶとともに心理学がどのようにわれわれの生活と結びついているかを理解する。また、臨床心理学における考え方の1つである認知行動療法について学び、認知行動療法を医療の場でどのように応用していくかを理解する。

2単位 (30 時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 感覚・知覚 2. 学 習 3. 記 憶 4. 動機づけ 5. 感情・情動 6. パーソナリティと知能 7. 社会・文化 8. こころの問題 9. 認知行動療法によるアプローチ：行動面・認知面からの理解 10. 認知行動療法によるアプローチ：機能分析 11. 認知行動療法によるアプローチ：行動のコントロール 12. 認知行動療法によるアプローチ：認知のコントロール 13. 認知行動療法によるアプローチ：情動のコントロール 14. 認知行動療法によるアプローチ：慢性疾患の行動変容 15. 認知行動療法によるアプローチ：歯科心身症の治療	30	講 義	筆記試験 小テスト

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 心理学	二宮 克美 著	医歯薬出版株式会社

歯科医療倫理学

講師名 西東 聖子

ねらい

歯科衛生士にとって医療倫理の概念が、なぜ必要なかを理解した上で医療の担い手として、自分自身をも守りながら患者中心・患者本位の歯科医療を進めていくための基本的な知識および取り組み方を学習する。

1 単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. なぜ医療倫理を学ぶのか 2. 医療倫理に関する規範 3. バイオエシックス（生命倫理学） 4. インフォームド・コンセント 5. 研究と医療倫理 6. 歯科医療倫理を考えるうえで必要な行動 7. 患者・歯科医療従事者の行動 8. その他歯科医療従事者に必要とされること	16	講義 演習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科医療倫理学	松井恭平・山根瞳	医歯薬出版株式会社

マナー・コミュニケーション

講師名 佐藤 朱美

ねらい

患者さんとのコミュニケーションの第一歩である接遇マナーの基礎を学び
臨床実習で活用ができ、患者さんから選ばれる歯科衛生士を目指す。
またデンタルエステ「歯肉マッサージ」「リップエステ」では現場で実践
できる知識・技術を習得する。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 2. 接遇マナー①接遇マナーの目的・第一印象について 3. 4. 接遇マナー②敬語テスト・敬語の基本 5. 6. 接遇マナー③敬語テスト・印象の良い話し方・ 電話対応の基本・報連相 7. 患者さん導入・挨拶・フェイスタオル・お見送り 8. 9. 10. 敬語テスト・歯肉マッサージの目的・実習 11. 12. 13. 敬語テスト・リップエステの目的・実習 14. 15. 敬語テスト・歯肉マッサージの実習	30	講義 実習	実技試験 筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
接遇マナー・デンタルエステ	佐藤朱美	シェルクレール

備考

※この授業は実務教育科目である。
(歯科衛生士としての患者対応に必要なマナー、審美歯科の実技を教授する)

歯科英語

講師名 川村 ジェアネッテ

ねらい

外国人患者とコミュニケーションを円滑におこなうことができるように歯科医療に必要な英会話を習得する。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 受付対応（電話）について 2. 受付対応（初診）、問診について 3. レントゲン・抜髄について 4. 抜歯について 5. 受付（会計・薬の説明）、虫歯の説明について 6. レジン充填について 7. 感染根管治療について 8. 歯周病について 9. 歯周検査について 10. ブラッシング指導について 11. スケーリングについて 12. 歯冠修復について 13. ブリッジ、義歯について 14. 矯正治療、インプラントについて 15. 口内炎、口臭、顎関節症について	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科医院での実用英会話	土田 和哉ほか	医歯薬出版株式会社

レクリエーション

講師名 松本奏絵 小嶋若菜 遠藤紗枝 濱松沙帆

ねらい

歯科衛生士を目指す上で必要な医療人としてのメイクや顔の筋肉を理解し日常の生活の質を向上させるための口のトレーニング、身体的健康（健康的な体型の維持、体力・筋力の維持、疲れにくい体、抵抗力の向上など）と精神的健康（気分転換・ストレス解消、不定愁訴の低減）を習得する。

1単位（30時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 医療従事者としてのメイク①（基礎編） 2. リフレッシュヨガ（呼吸） 3. リフレッシュヨガ（美背中をつくる） 4. 医療従事者としてのメイク②（アイメイク編） 5. リラックスヨガ（心身をゆるめる） 6. 口のトレーニング①（口の機能・役割について） 7. リラックスヨガ（PMS 月経前症候群緩和） 8. 口のトレーニング②（口輪筋のトレーニング 1） 9. 医療従事者としての髪形（まとめ髪） 10. 口のトレーニング③（顔の体操 1） 11. コンディショニングヨガ（自己観察） 12. 口のトレーニング④（顔の体操 2） 13. コンディショニングヨガ（肩こり緩和） 14. 口のトレーニング⑤（口輪筋のトレーニング 2） 15. 口のトレーニング⑥（口輪筋のトレーニング 3）	30	演習	実技試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
やさしく学ぶ YOGA 哲学 ヨーガストラ 口のトレーニングデジタルテキスト	向井田 みお 畑中 麻里	アンダーザライトヨガスクール 株式会社 FFC

キャリアデザイン

講師名 木賀 義人

ねらい

歯科衛生士になるために必要なことや、社会人になった時に必要な対応能力を身につける。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 就職活動についてのルール 2. 自己分析について 3. 自己 PR について 4. 求人票の見方と社会保険について 5. 履歴書の書き方 6. 面接練習 7. 社会生活について 8. 人間関係構築方法	16	講義	レポート

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
なし		

解剖学

講師名 安保 直樹

ねらい

将来医療専門職に関わるものとして、系統解剖学の学習を通じて医学学習に対する基本的姿勢を確率するとともに、人体という自然に対する畏敬の念と、医学の継続学習の必要性を理解してもらう。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 人体の構造と昨日を学ぶにあたって 2. 骨格系 I 総論 3. 骨格系 II 各論 4. 筋と運動 5. 消化・吸収 6. 循環 I 総論 心臓 7. 循環 II 動脈系 静脈系 胎児の循環系 リンパ系 8. 神経 I 総論 中枢神経系 9. 神経 II 脳脊髄膜 脳の血管 末梢神経系 10. 神経 III 脊髄神経 自律神経 神経の主な伝導路 11. 感覚 12. 呼吸 13. 腎機能と排尿 14. 内分泌 15. 生殖	30	講義 グループ ワーク	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	前田 健康	医歯薬出版株式会社

生理学

講師名 石井 久淑

ねらい

生理学では人体の生命現象を司る様々な生体反応の機序とこれらの反応を維持するための生体の内部環境の恒常性（ホメオスターシス）の仕組みを理解することが目的であり、人体を構成する9つのシステム（神経、感覚、運動、循環、呼吸、消化、排泄、内分泌及び生殖系）の役割とそれらの協調的な相互作用を学修する。

2単位（30時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 序章 生理学とは 生体のシステム（系）と恒常性 2. II編6章 神経系1 神経系の成り立ち 3. 6章 神経系2 末梢神経系の構成と働き 4. 6章 神経系3 中枢神経系の構成と働き 5. 5章 感覚系1 体性感覚と内臓感覚 6. 5章 感覚系2 特殊感覚 7. 2章 運動系（筋系） 筋の構造と筋収縮の仕組み 8. 4章 循環系1 血液の成分と働き 9. 4章 循環系2 心臓と血管系による循環調節 10. 7章 呼吸系 呼吸運動とガス交換の仕組み 11. 3章 消化系 消化と吸収過程 12. 8章 排泄系 腎における尿の生成 13. 9章 内分泌系1 視床下部-下垂体系 14. 10章 内分泌系2 と生殖系 内分泌腺の種類と働き 15. 11章 各システムの相互作用と恒常性 体温調節	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	前田健康他編	医歯薬出版株式会社

生化学

講師名 大場 雄介

ねらい

ヒトの健康な生命活動を支えるために行われている、体内・口腔内での代謝と呼ばれる化学反応について理解する

2 単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. I 編 1 章 生体の構成要素 生体の構成成分 2. I 編 1 章 生体の構成要素 生体の栄養素 3. I 編 2 章 生体における消化と吸収 4. I 編 3 章 糖質代謝 5. I 編 3 章 脂質代謝 6. I 編 4 章 タンパク質とアミノ酸の代謝、 タンパク質合成、DNA と遺伝子 7. I 編 5 章 血糖値と糖尿病 8. II 編 1 章 歯と歯周組織の生化学 結合組織 9. II 編 1 章 歯と歯周組織の生化学 歯の無機成分 10. II 編 2 章 硬組織の生化学 骨と歯の生成 11. II 編 3 章 唾液腺の生化学 唾液の組成と機能 12. II 編 4 章 プラークの生化学 プラークの生物活性 13. II 編 4 章 プラークの生化学 プラークによる う蝕発生機構 14. 4 章 プラークの生化学 プラークによる 口臭発生機構 15. まとめ	30	講義	筆記試験 小テスト

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 2 栄養と代謝	高橋 信博	医歯薬出版株式会社

組織・発生学

講師名 桜田 奈保

ねらい

歯科医学的に最低限要求される組織・発生学の知識を身につける。
 歯や歯周組織といった口腔組織・解剖・発生に関して理解する。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 細胞小器官の種類と構造 2. 組織の種類と構造 3. 口腔粘膜の種類と構造 4. 唾液腺の種類と構造 5. 人体、口腔顎顔面の発生 6. 口腔の発生、歯と歯周組織の発生 7. 歯の組織 8. まとめ	16	講義	筆記試験 小テスト

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	前田 健康	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	前田健康・増田裕次 ・山根瞳・遠藤圭子 ・水上美樹	医歯薬出版株式会社
標準組織学 各論 第4版	藤田 尚男／藤田 恒夫	医学書院

口腔解剖学

講師名 杉原 真依

ねらい

歯科医療の基礎、臨床においても基本となる口腔の解剖学的構造を理解し、今後の基礎・臨床の礎となる知識を構築し、歯科衛生士国家試験に向けての知識も植え付ける

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 一般的な解剖学的構造 2. 口腔領域の解剖 3. 下顎の総合的構造 4. 下顎の総合的構造 5. 上顎の総合的構造 6. 上顎・頭蓋の総合的構造 7. 頭蓋の総合的構造 8. まとめ（筋肉について） 9. 舌の総合的構造 10. 顔面部の総合的構造 11. 顔面部の総合的構造 12. 顎関節、隙の総合的構造 13. 唾液腺の総合的構造 14. まとめ（神経について） 15. 総まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	前田健康・増田裕次 ・山根瞳・遠藤圭子 ・水上美樹	医歯薬出版株式会社

口腔生理学

講師名 佐藤 寿哉

ねらい

健全な口腔機能を保つための諸機能とその調節について学び、口腔解剖学、口腔組織発生学などの知識を加え、ヒトの「口腔諸器官の働き」の基本を理解する。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. II編 3章 歯および歯周組織の機能 I編 3章 歯と口腔の感覚 2. I編 顎・口腔の機能 4章 味覚と嗅覚 3. 5章 咬合と咀嚼・吸啜 ①下顎位～③顎反射 4. 5章 咬合と咀嚼・吸啜 ④摂食行動～⑥吸啜 5. 6章 嚥下と嘔吐 6. 7章 発声 7. 8章 唾液分泌 ①唾液腺、②唾液の分泌機構 8. 8章 唾液分泌 ③唾液の性状・機能 ④唾液と疾患	16	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学	前田 健康	医歯薬出版株式会社

歯牙解剖学

講師名 橋 雄馬

ねらい

歯の形態を把握し、歯種ごとの特徴を説明できるようにする。歯の表示方式など臨床専門科目修得のための基礎知識を身につける。

1単位 (20時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯の概論 2. 歯牙の形態 3. 永久歯①前歯 4. 永久歯②小臼歯 5. 永久歯③大臼歯 6. 乳歯①乳前歯 7. 乳歯②乳臼歯 8. 歯の配列と咬合 9. 異常歯 10. まとめ	20	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学	前田健康・増田裕次 ・山根瞳・遠藤圭子 ・水上美樹	医歯薬出版株式会社

病理学・口腔病理学

講師名 佐藤 英樹

ねらい

臨床で歯科医療を学ぶにあたり病気のメカニズム、治癒過程を勉強しておくことで
臨床をより深く理解できるようにする。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 病理学総論 2. 循環障害 3. 代謝障害 4. 増殖と修復 5. 炎症と免疫応答異常 6. 腫瘍 7. 歯の発育異常、歯の損傷と着色・付着物 8. う蝕 9. 象牙質・歯髄複合体の病態 10. 歯周組織の病態 11. 口腔粘膜病変、唾液腺の病変 12. 顎骨の病変、加齢変化 13. 口腔領域の嚢胞と口腔領域の奇形、遺伝性疾患 14. 口腔領域の腫瘍と癌、 15. まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学	前田健康・眞木吉信・ 松田裕子	医歯薬出版株式会社

薬理学

講師名 坂井 くるみ

ねらい

薬物の体内における動態と作用を理解し薬理学の基礎的知識を得る

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 薬物の作用、薬物動態 2. 薬物の適用方法の種類と特徴、薬物の作用に影響を与える因子 3. 薬物の副作用・有害作用、医薬品を適用する際の注意、薬物の取り扱い、薬物と法律・薬物と医薬品 4. ビタミンとホルモン 5. 末梢神経系に作用する薬物① 6. 末梢神経系に作用する薬物② 7 中枢神経系に作用する薬物 8. 循環器系に作用する薬物、腎臓に作用する薬物 9. 呼吸器系に作用する薬物、消化器系に作用する薬物 10. 血液に作用する薬物 11. 免疫と薬、悪性腫瘍と薬、代謝系疾患治療薬 12. 炎症と薬 13. 痛みと薬 14. 局所麻酔薬 15. 抗感染症薬、消毒に使用する薬	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学	鈴木 邦明他	医歯薬出版株式会社

微生物学

講師名 宮川 博史

ねらい

微生物は、全身や口腔だけでなくいろいろな環境中に生存し、口腔感染症を含む様々な感染症を引き起こす。微生物学ではそのような感染症を引き起こす微生物の特徴や病原性、感染機序について学ぶ。また、微生物感染時におけるヒトの感染防御機構（免疫）とともに、疾患の予防（滅菌・消毒）・治療（化学療法）について学習する。

2単位（30時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 疾病と微生物（歴史）、感染と感染症 2. 微生物の位置づけ、微生物の観察法 3. 細菌の構造・代謝・増殖・病原因子 4. 化学療法と薬剤耐性 5. 滅菌・消毒、食中毒 6. 病原性細菌各論 7. ウイルス学総論・各論① 8. ウイルス学各論②、真核病原微生物 9. 免疫学1・宿主防御機構と免疫担当細胞 10. 免疫学2・免疫機構 11. 免疫学3・液性免疫 12. 免疫学4・細胞性免疫・アレルギー 13. 口腔環境と口腔微生物との関わり 14. 齲蝕に関与する微生物とその特徴 15. 歯周疾患に関与する微生物の特徴・ その他の口腔感染症と原因微生物	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進 2 微生物学	木村思信・栗原英見 ・前田健康	医歯薬出版株式会社

保健生態学 I

講師名 岡川 直美

ねらい

人間集団とその周りの自然環境や社会環境との関りを学ぶことにより、個人の健康や地域集団の疾病予防、そして口腔領域の健康と疾病予防に理解を深める。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 保健生態学とは 2. 疫学の定義及び概念 3. 人口の動向 4. 健康と環境① 5. 健康と環境② 6. 健康と環境③ 7. 感染症の概念 8. 主な感染症の動向 9. 食品と健康 10. 歯・口腔の健康と予防 11. 歯・口腔の健康 12. 歯・口腔の付着物・沈着物 13. 口腔清掃の意義 14. 歯科疾患の疫学 15. まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と 社会の仕組み1 保健生態学	眞木 吉信他	医歯薬出版株式会社

保健生態学Ⅱ

講師名 岡川 直美

ねらい

臨床で用いられる主な口腔疾患の予防の考え方に理解を深め、実践できるようになる。ライフステージごとの口腔保健や精神・産業・災害・国際といった分野の口腔保健について学習し、保健活動における歯科衛生士の役割を理解する。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 序論 2. II編 第4章 う蝕の予防 3. II編 第5章 フッ化物によるう蝕予防 4. II編 第6章 歯周疾患の予防 5. II編 第7章 その他の疾患・異常の予防 6. II編 第7章 口臭の予防 7. II編 第8章 ライフステージごとの口腔保健管理 8. III編 第1章 地域保健・公衆衛生 9. III編 第2章 母子保健 10. III編 第3章 学校保健 第4章 成人保健 11. III編 第5章 産業保健 12. III編 第6章 老人（高齢者）保健 13. III編 第7章 精神保健 14. III編 第8章 災害時の口腔保健 15. III編 第9章 国際保健	30	講義	筆記試験 小テスト

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学	眞木 吉信ほか	医歯薬出版株式会社

保健情報統計

講師名 岡川直美 岩田朋巳

ねらい

科学的な根拠に基づいた歯科衛生活動ができるようになる。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 1章 保健情報と保健統計 2. 2章 保健情報と疫学 3. 3章 歯科疾患の指数 4. 歯周疾患の指数 5. 歯周疾患の指数 6. 歯周疾患の指数② 7. 口腔清掃状態の指数① 8. 口腔清掃状態の指数② 9. その他の歯科保健指標 10. 4章 保健情報の分析手順 11. 5章 保健統計の方法 12. 6章 保健情報の分析・演習① 13. 6章 保健情報の分析・演習② 14. 7章 情報の保護と倫理 15. まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間の社会の仕組み3 保健情報統計学	眞木 吉信ほか	医歯薬出版株式会社

法律・制度学

講師名 高橋 大郎

ねらい

歯科衛生士法の歴史を学び、歯科衛生士の重要性が増してきていることを理解する。また、歯科衛生士法を含む医療従事者の資格法や口腔保健に関わる法律、社会保障制度について理解を深める。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科衛生士法と法律1 2. 歯科衛生士法と法律2 3. 歯科衛生士法と法律3 4. 歯科衛生士法と法律4 5. 歯科衛生士法と法律5 6. 医療関係職種1 7. 医療関係職種2 8. その他関係法規（薬事関連） 9. その他関係法規（保健関連） 10. その他関係法規（その他） 11. 社会保障1 12. 社会保障2 13. 社会保障3 14. 医療の動向 15. 衛生統計	30	講義	筆記試験 小テスト

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度	石井 拓男ほか	医歯薬出版株式会社

歯科衛生学総論

講師名 西東 聖子

ねらい

歯科衛生士を目指す上で、“口腔の健康”を通して“全身の健康”の維持・増進をはかり，“生活の質の向上”に資するための「歯科衛生」を理論と実践の両面から探究する学問として位置付けられた「歯科衛生学」を学ぶ。歯科衛生業務を展開していくにあたり，倫理的な視点・科学的思考によって，歯科衛生活動を展開するために必要な基礎を学ぶ。

1単位（15時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科衛生士は治療者 2. 歯科衛生学とは 3. 歯科衛生の歴史 4. 歯科衛生活動のための理論 5. 歯科衛生過程 6. 歯科衛生士法と歯科衛生業務 7. 歯科衛生士の活動と組織 8. 海外における歯科衛生士	16	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学総論	遠藤 圭子ほか	医歯薬出版株式会社

歯科臨床概論

講師名 松下 貴恵

ねらい

歯科臨床について理解を持って教育を受けるために必要な知識を身につけるため、歯科や医科の用語とその意味を学ぶとともに、臨床上の歯科衛生士の担う役割を自覚してもらう。これから学習してゆく全ての臨床科目、実習において、必要不可欠となる歯科知識の基盤を学ぶこと。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. I 編- 1 章 歯科診療とは 2. I 編- 2 章 歯科診療所、 3 章 歯科診療所における業務 3. II 編- 1 章 ライフステージと歯科診療、 2 章 歯科診療で行うこと 4. 各論 歯科保存・歯周治療 5. 各論 小児・矯正 6. 各論 口腔外科 7. 各論 補綴 8. 各論 障害者・高齢者歯科	16	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生士のための歯科臨床概論 第2版	松井 恭平	医歯薬出版株式会社

保存修復学

講師名 槌谷 賢太

ねらい

歯科保存学の歯科における重要性を学習すること。

歯科保存学が他の歯科の分野とどのような関わりがあるかを学習すること。

どのような問題が国家試験に出題されるのかを学習すること。

国家試験には出題されにくい、臨床的には必要な知識も学習すること

歯科保存修復学における歯科衛生士業務と患者様との関わり方について学習すること

1単位 (20時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 保存修復学概論 2. う蝕、及び歯科における硬組織疾患 3. 保存修復治療の準備、及び窩洞の分類、歯髄保護 4. コンポジットレジン修復 5. グラスアイオノマーセメント修復 6. 各種インレーについて 7. ベニヤ修復、ホワイトニング 8. 歯科接着学概論 9. 保存修復学における歯科衛生士の役割 10. まとめ	20	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学	千田彰・石井信之ほか	医歯薬出版株式会社

歯内療法学

講師名 三戸 浩平

ねらい

歯科治療の中でよく行われる治療の1つである歯内療法に対し、適切な理解を深め、安全に治療が行われるよう歯科衛生士としての役割を果たせるようにする。

1単位 (20時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯内療法の概要 2. 診査・診断、分類、治療法 3. 歯髄保存療法 4. 抜髄法、根管拡大・形成 5. 洗浄・貼薬 6. 根管充填 7. 外科的歯内療法 8. 外傷、歯根未完成歯の治療、生活歯髄切断法 9. 歯内療法の安全対策 10. ホワイトニング、象牙質知覚過敏症、歯内療法まとめ	20	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学	千田彰・石井信之ほか	医歯薬出版株式会社

歯周治療学

講師名 長尾 敬志

ねらい

歯周疾患の病態・診査・治療法に関して、学術的な基礎知識を身に着ける。

歯周療法学に興味を持ち、自ら学ぶきっかけとする。

最終的には知識を患者さんの診療に還元できるようにする。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯周病とは？ 2. 歯周組織の構造と機能 3. 歯周疾患の分類① 4. 歯周疾患の分類②／歯周疾患の原因① 5. 歯周疾患の原因②／歯周医学 6. 歯周治療の進め方／診査① 7. 保険診療／診査② 8. 歯周基本治療① ～TBI, SC～ 9. 歯周基本治療② ～薬物療法, SRP～ 10. 歯周基本治療③ ～SRP～ 11. 試験対策①／歯周外科① 12. 歯周外科② 13. 分岐部病変の治療／リハビリテーション① 14. リハビリテーション② 15. メインテナンス	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯周病学	松井恭平ほか	医歯薬出版株式会社

歯科補綴

講師名 中条裕太 宮前健介

ねらい

歯科補綴学を臨床的，総合的に理解する。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科補綴学とは 2. 歯科補綴学の基礎知識 1 3. 歯科補綴学の基礎知識 2 4. 歯の欠損に伴う障害 5. 補綴装置（クラウン） 1 6. 補綴装置（クラウン） 2 7. 補綴装置（ブリッジ） 1 8. 補綴装置（ブリッジ） 2 9. 補綴装置（部分床義歯） 1 10. 補綴装置（部分床義歯） 2 11. 補綴装置（全部床義歯） 1 12. 補綴装置（全部床義歯） 2 13. 補綴装置（インプラント） 14. 歯科補綴における歯科衛生士の役割 15. まとめ	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学	赤川 安正ほか	医歯薬出版株式会社

歯科矯正

講師名 木山 望

ねらい

矯正歯科診療に携わる際の知識を身につけるための土台となる科目です。

矯正歯科診療のスタッフになり得る実践的知識を身につける入り口としてください。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科矯正治療の概要 2. 成長発育 3. 正常咬合と不正咬合 4. 矯正歯科診断 5. 矯正歯科治療と力 6. 矯正装置（１） 7. 矯正装置（２） 8. 上下顎の前後の、垂直的関係の不調和 9. 成人矯正・口腔顎顔面の形成異常と変形 10. 歯の埋伏と歯数の異常・治療時のトラブル・保険適用の矯正、 矯正歯科診断にかかわる業務 11. 矯正歯科診療時の業務（１） 12. 矯正歯科診療時の業務（２） 13. 矯正歯科患者と口腔保健管理 14. 口腔筋機能療法・器材、資料、文章の管理 15. まとめ	30	講 義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学	氷室 利彦ほか	医歯薬出版株式会社

口腔外科・歯科麻酔

講師名 大和田 哲志

ねらい

顎・口腔領域の疾患を挙げ、特徴、診断法、治療法を説明できる。

口腔外科診療における歯科衛生士の役割を説明できる

口腔外科患者と歯科衛生士の関わりを説明できる。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 口腔外科の概要 2. 顎口腔領域の先天異常と発育異常 3. 顎口腔領域の損傷と機能障害 4. 口腔粘膜の疾患 5. 顎口腔領域の化膿性炎症性疾患 6. 顎関節疾患 7. 顎口腔領域の嚢胞性疾患 8. 顎口腔領域の良性腫瘍 9. 顎口腔領域の悪性腫瘍 10. 顎口腔領域の神経性疾患・血液疾患 11. 顎口腔領域の腫瘍類似疾患・唾液腺疾患・診察と診断、滅菌と消毒 12. 口腔外科診療の実際（口腔外科小手術） 13. 歯科治療と歯科麻酔 14. 救急蘇生法① 15. 救急蘇生法②	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学	山根 源之ほか	医歯薬出版株式会社

障害者・高齢者歯科

講師名 岡田 和隆

ねらい

高齢者の歯科保健，医療，福祉を学習する．

障害者の口腔の健康を維持・回復するための歯科衛生士の役割を学習する．

1単位 （30時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 高齢社会と健康/障害の概念 2. 歯科医療で特別な支援が必要な疾患 3. 高齢者・障害者に関わる法制度/高齢者の住まい・入院設備 4. 加齢に伴う身体的機能の変化/高齢者の精神・心理的变化 5. 口腔・咽頭領域の加齢変化 6. 高齢者に多い全身疾患 7. 高齢者に特有な口腔疾患 8. 高齢者の生活機能評価・臨床検査 9. 高齢者の栄養状態・薬剤服用/在宅訪問歯科診療/歯科衛生過程 10. 口腔ケア・総論 11. 口腔ケア・各論/周術期口腔機能管理 12. 障害者の歯科医療と行動調整 13. 摂食嚥下リハビリテーション・総論 14. 摂食嚥下リハビリテーション・各論 15. 障害者への健康支援と口腔衛生管理/地域における障害者歯科	30		小テスト 筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学	植田耕一郎ほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 障害者歯科学	向井美恵ほか	医歯薬出版株式会社

小児歯科

講師名 千田 奈津子

ねらい

小児歯科の知識を学び、小児歯科診療における歯科衛生士の役割について理解する

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 概論、心身の発育 2. 小児の生理的特徴 3. 顔面発育、歯の発育、歯の異常 4. 歯の異常 5. 小児の発達について 6. 歯列・咬合の異常 7. 小児の歯科疾患①齲蝕 8. 小児の歯科疾患②歯周疾患③口腔軟組織疾患 小児期の治療と歯科的問題点・対応法 9. 小児歯科における診療体系①原則・歯冠修復 10. 小児歯科における診療体系②歯冠修復 11. 小児歯科における診療体系③歯内療法 12. 小児歯科における診療体系④外科処置・保険・誘導 13. 障害児の歯科治療 14. 口腔機能発達、児童虐待、齲蝕予防 15. 小児歯科治療に関わる歯科衛生士について	30	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 小児歯科学	大嶋 隆ほか	医歯薬出版株式会社

備考

※この授業は実務教育科目である。 (歯科医師として小児の成長・発達における歯科治療について教授する)

齶蝕予防処置

講師名 山田 寛恵

ねらい

う蝕のメカニズムについて理解できる。う蝕予防で使用する薬物を理解し、知識を習得すること、薬物の応用ができる。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. う蝕予防処置序説・う蝕の知識 2. 歯および唾液とフッ化物応用の知識 3. う蝕予防処置法のアウトライン フッ化ジアンミン銀について 4. フッ化物溶液の作成 フッ化物薬剤の味見と PH 測定 5. フッ化物の毒性について 6. フッ化物応用法について 7. フッ化物応用法実習 8. フッ化物歯綿塗布法相互実習①（歯ブラシ法） 9. フッ化物歯綿塗布法相互実習②（綿球法） 10. フッ化物洗口法について 11. フッ化物配合歯磨剤について 12. う蝕活動性試験①（RD テスト） 13. う蝕活動性試験②(CAT21バフ) 15. まとめ	30	講義 実習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科衛生士のための齶蝕予防処置法第2版	高坂利美・合場千佳子 ・白鳥たかみほか 中垣晴男・加藤一夫 ・石飛國子・高坂利美ほか	医歯薬出版株式会社 医歯薬出版株式会社

歯科予防処置Ⅰ

講師名 萱野 美帆

ねらい

口腔の二大歯科疾患の一つである「う蝕」と「歯周病」の原因・予防目的を学び、専門的処置の基礎を習得する

各種器具機材の操作方法を学び的確な操作ができるようになる

3単位 (90時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科予防処置の法的位置づけ・内容・範囲と業務、予防の概念について 2. 3. 口腔の基礎知識・口腔の名称・歯の名称 4. う蝕と歯周病とは 5. 口腔内の情報収集・ミラーと探針の操作方法 6. プロービング・歯の動揺・リンデの分類について 7. ミラー・プロービングマネキン実習 8. プロービングマネキン実習 9. プロービングマネキン実習（基本検査） 10. プロービングマネキン実習（基本検査） 11. シックルスケーラー講義・把持法・固定 12. シックルスケーラー把持法・固定・模型練習 13. 14. プロービング相互実習 15. シックルスケーラー操作方法（運動） 16. シックルスケーラーマネキン実習（上顎前歯） 17. 18. プロービング相互実習 19. シックルスケーラーマネキン実習（下顎前歯） 20. シックルスケーラーマネキン実習（上顎臼歯） 21. 22. シックルスケーラーマネキン実習（下顎臼歯/全顎） 23. 24. シックルスケーラー/プロービング相互実習 25. 歯面研磨講義 26. 歯面研磨マネキン実習 27. 28. 歯面研磨相互実習 29. 30. キュレット講義.	90	講義 実習	実技試験 筆記試験

31. 32. キュレット部位別操作法マネキン実習（上顎前歯）			
33. 34. キュレット部位別操作法マネキン実習（下顎前歯）			
35. 36. キュレット部位別操作法マネキン実習（上顎臼歯）			
37. 38. キュレット部位別操作法マネキン実習（下顎臼歯）			
39. 40. キュレット全顎マネキン実習			
41. 42. キュレット全顎マネキン実習			
43. 44. キュレット実技チェック			
45. 46. 総仕上げ実習			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高坂利美・合場千佳子 ・白鳥たかみほか	医歯薬出版株式会社

歯科予防処置Ⅱ

講師名 萱野美帆 西東聖子 加藤広奈 高田梨沙

ねらい

基本的操作に加えて対象者に合わせた説明や実技が正確にできるようになる。

全ての実技習得へ向け、実践的な相互実習を中心に実技を身につける。

4単位 (120時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 2. プロービング相互実習 3. 4. 歯面研磨相互実習 5. 6. プロービング・SC・歯面研磨相互実習 7. シャーピング講義 8. 歯周治療患者説明・対応方法 9. 10. プロービング・SC・歯面研磨相互実習 11. 12. 歯面清掃器知識・実習 13. 14. 超音波スケーラー講義・実習 15. 16. プロービング・患者説明実習 17. 齲蝕活動性試験講義 18. 19. 超音波スケーラー相互実習 20. 齲蝕活動性試験実習 21. 22. PMTC・歯面清掃器講義・実習 23. 集団応用について 24. 25. PMTC・歯面清掃器相互実習 26. 27. プロービング・PCR・TBI 相互実習 28. 29. プロービング・SC・歯面研磨相互実習 30. 31. プロービング・TBI・歯面研磨相互実習 32. 33. プロービング・SC・歯面研磨相互実習 34. キュレット操作確認実習（前歯） 35. シーラント講義 36. 37. トレー法講義・実習 38. キュレット操作確認実習（臼歯） 39. 40. キュレット相互実習 41. 42. プロービング・SC・歯面研磨相互実習	120	講義 実習	筆記試験 実技試験

43. 44. プロービング・SC・歯面研磨相互実習			
45. 46. プロービング・手用スクレーパー・歯面研磨実習			
47. 48. プロービング・PCR・TBI 患者指導実習			
49. 50. 対象者別患者指導実習			
51. 52. 53. 臨床工学技士学科コラボ患者実習			
54. 55. プロービング・SC・PMTc 相互実習			
56. 対象者別患者指導実習			
57. 歯周治療について①			
58. 歯周治療について②			
59. 歯周治療について③			
60. 歯周治療について④			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社

歯科予防処置Ⅲ

講師名 山田寛恵

ねらい

歯科予防処置において必要な知識を確実に習得することで、臨床・臨地実習で率先して行動できる学生を育てる。

更に、知識と実体験を結びつけ、国家試験に対応できる応用力を身につける。

2単位 (60時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯周治療とは（症例を通して） 2. 歯周治療の基礎知識 3. 歯周基本治療 4. 歯周外科とインプラント治療 5. セルフケアの指導 6. プラークコントロールと力のコントロール 7. メインテナンス・SPT 8. 健康の概念について 9. 予防の概念について 10. 口腔・口腔周囲について 11. 付着物・沈着物について 12. 歯周ポケット・フローリングについて 13. 歯周治療検査について 14. 手用スケーラー・シャープニングについて 15. パワースケーラー・歯面研磨・歯面清掃について 16. 歯周病・歯周病原因について 17. う蝕・う蝕の原因について 18. 齲蝕活動性試験について① 19. 齲蝕活動性試験について② 20. フッ化物歯面塗布・術式について 21. フッ化物洗口・フッ化物配合歯磨剤について 22. フッ化物の毒性と対応・シールドについて 23. 24. 患者実習（問診） 26. 26. 患者実習（保健指導）	60	講義 実習	筆記試験

2025年度

27. 28. 総合実習①			
29. 30. 総合実習②			

テキスト

書名	編・著者名	発行所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社

摂食・嚥下リハビリテーション

講師名 濱田 浩美

ねらい

摂食・嚥下障害のリハビリテーションと口腔ケアが同時にできる専門家として知識・技術を学ぶ。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 摂食・嚥下を取り巻く状況 2. 摂食・嚥下総論 3. 摂食・嚥下の解剖、生理 4. 発達期の摂食・嚥下障害 5. 口腔機能低下症 6. 口腔機能低下症実習 7. 病態別嚥下障害 8. スクリーニング検査 9. 精密検査、栄養評価 10. リスクマネジメント 11. 摂食・嚥下障害の口腔ケア 12. 摂食・嚥下訓練（間接訓練） 13. 摂食・嚥下訓練（直接訓練） 14. 摂食・嚥下調整食 15. 摂食・嚥下訓練実習	30	講義 実習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生士のための 摂食嚥下リハビリテーション 第2版	植田耕一郎	医歯薬出版株式会社

栄養学

講師名 坂下 美樹

ねらい

栄養は生命を左右する重要な役割を担っていて、身体は食べたものでしか作られません。。
食物を摂取した後の体内に於ける消化・吸収・代謝を理解し、現代の食生活の現状を知り、
正しい食生活を身につけ、食べ物とう蝕や歯周疾患との相互関係を学ぶ。

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 糖質の栄養学的意味 2. タンパク質の栄養学的意味 3. 脂質の栄養学的意味 4. ビタミンの栄養学的意味 5. 水とミネラルの栄養学的意味 6. 日本人の栄養摂取の現状 7. 栄養素の消化、吸収 8. ライフステージ別栄養と調理、栄養食品について	16	講義	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能2 栄養と代謝	高橋信博 江指隆年ほか	医歯薬出版株式会社

歯科保健指導Ⅰ

講師名 加藤 広奈

ねらい

健康と疾病の概念を理解し、人々の歯、口腔の健康を維持・増進するために、
プロフェッショナルケア、セルフケア、コミュニティケアの基本となる知識・技術・態度
を習得する。

2単位 (60時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 1年間の講義の流れ、Ⅰ編総論 定義 健康の概念 2. Ⅱ編1章口腔の基礎知識、口腔の機能、摂食嚥下 3. Ⅱ編2章ウ蝕と歯周病の基礎知識、付着物・沈着物 4. Ⅱ編2章ウ蝕と歯周病の基礎知識、ウ蝕・歯周病 5. 口腔内観察相互実習 6. 付着物沈着物の観察相互実習 7. Ⅲ編 歯科保健指導各論 2章分析のためのデータ 8. 染め出し実習、ブラッシング実習 9. Ⅲ編歯科衛生指導各論 3章 口腔清掃方法 ブラッシング方法① 10. Ⅲ編歯科衛生指導各論 3章 口腔清掃方法 ブラッシング方法② 11. Ⅲ編歯科衛生指導各論 3章 口腔清掃方法 ブラッシング方法③ 12. 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入 ：妊産婦期 13. 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入 ：乳児期 14. ブラッシング実技試験 15. 1章ライフステージに対応した歯科衛生介入 ：幼児期 16. 染め出し・ブラッシング実習 17. Ⅲ編歯科保健指導各論3章 口腔清掃方法 電動歯ブラシ	60	講義 実習	実技試験と 筆記試験

18. Ⅲ編歯科保健指導各論3章 口腔清掃方法 その他の方法 補助的清掃用具			
19. Ⅲ編歯科保健指導各論 3 章歯磨剤・洗口剤・保湿剤			
20. 3章 食生活指導のための基礎知識①			
21. 補助的清掃用具実技試験			
22. 3章 食生活指導のための基礎知識②			
23. 口臭、口腔の機能的問題の把握			
24. 25. 相互実習（口腔内観察・染め出し・PCR・ブラッシング）			
26. 3章 食生活指導のための基礎知識③			
27. 28. 相互実習（術者磨き・染め出し）			
29. 3章 食生活指導のための基礎知識④			
30. まとめ			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高坂利美・合場千佳子 ・白鳥たかみほか	医歯薬出版株式会社

歯科保健指導Ⅱ

講師名 加藤 広奈

ねらい

健康の疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術及び態度を修得する。

2単位 (60時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 4章保健行動のための基礎知識 2. 1章歯科衛生課程の進め方①歯科衛生課程の概要 3. 1章歯科衛生課程の進め方②歯科衛生課程の各構成要素 4. 2章歯科衛生士アセスメントとしての情報収集と情報整理 5. 2章歯科衛生士アセスメントとしての情報収集と情報整理 問診の実践 6. ライフステージに対応した歯科衛生介入：学齢期 7. ライフステージに対応した歯科衛生介入：青年期 8. ライフステージに対応した歯科衛生介入：成人期 9. ライフステージに対応した歯科衛生介入：老年期 10. 4章②口腔機能管理に関わる指導、③生活習慣の指導 11. 12. 交流実習①に向けた PCR・口腔衛生指導 13. 交流実習①に向けた歯科衛生アセスメント計画 14. 15. 16. 交流実習① 17. 交流実習①振り返り、交流実習②に向けた歯科衛生アセスメント計画 18. 配慮を要する者への歯科衛生介入：要介護高齢者 19. 配慮を要する者への歯科衛生介入：障害児、大規模災害被災者 20. 1章地域歯科保健活動における健康教育 21. 交流実習②に向けた相互実習 22. 23. 24. 交流実習②	60	講義 実習	筆記試験

2025年度

25. 交流実習②振返り、交流実習③に向けた歯科衛生評価計画			
26. 27. 28. 交流実習③			
29. 30. 交流実習報告会			

テキスト

書名	編・著者名	発行所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社

歯科保健指導Ⅲ

講師名 岡川直美

ねらい

3年次の歯科保健指導は、臨床における口腔ケアについてのエビデンスの理解を深め、臨床現場で実践できる能力を身につける。

2単位 (60時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 口腔機能向上実習について 2. 口腔機能向上実習実践 3. 口腔機能向上媒体作成① 4. 口腔機能向上媒体作成② 5. 口腔機能向上媒体作成③ 6. 口腔機能向上媒体作成④ 7. 口腔機能向上媒体発表（クラス内発表） 8. 嚥下体操（クラス内発表） 9. 口腔機能向上媒体発表会 10. 口腔機能向上媒体指導（2年生へ向けて） 11. リーフレット作成 12. 口腔ケア実習パワーポイント作成① 13. 口腔ケア実習パワーポイント作成② 14. 口腔ケア実習パワーポイント完成 15. 口腔ケア実習振り返り① 16. 口腔ケア実習振り返り② 17. 歯科保健指導の意義と目的について 18. 歯科保健指導健康教育の進め方について 19. 保健行動と行動変容について 20. 情報収集・全身的な健康状態の把握について 21. 生活環境と生活背景の把握について 22. 生活習慣の把握について 23. 口腔の器質的、機能的問題の把握について 24. 口腔衛生管理・口腔清掃用具について 25. 歯磨剤・洗口剤について	60	講義 演習	筆記試験

2025年度

26. 口腔清掃状態の評価について			
27. 口腔清掃自立度について			
28. 生活習慣指導について			
29. 食生活指導について			
30. 健康教育について			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社

歯科診療補助Ⅰ

講師名 仁井 奈美 峰松望 綿引彩香

ねらい

歯科診療における診療補助の位置づけ、診療補助と介助の違いを理解する。

歯科材料の基礎知識および基礎技術を学ぶ。歯科診療補助の基本的な実技を習得する。

3単位（90時間）

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科診療補助の概念 2. 医療安全と感染予防 3. 感染予防対策の実践 4. 感染予防について 5. 滅菌と消毒、医療廃棄物の取扱い 6. 実習室の使い方① 7. 実習室の使い方② 8. 実習室の使い方③ 歯科診療における基礎知識、共同動作 9. バキューム操作・シリンジ操作について（曲・直） 10. 口腔内2人洗浄実習 11. 口腔内2人洗浄実技試験 12. 口腔内1人洗浄実習 13. 口腔内2人洗浄相互実習 14. 口腔内1人洗浄実技試験 15. 材料の基礎知識・印象材とは アルジネート印象材練和実習① 16. アルジネート印象材練和実習② 17. 石膏について 18. アルジネート印象材練和実習③ 19. 片顎模型作成（アルジネート・石膏） 20. 口腔内1人洗浄相互実習 21. 22. スタディモデル練和実習・ワックスについて 23. 上顎スタディモデル作成実習 24. 下顎スタディモデル作成実習 25. 26. 下顎アルジネート相互実習	90	講義 実習	実技試験 筆記試験

27. ラバーダム防湿について			
28. ラバーダム防湿実習（無翼法・有翼法）			
29. ラバーダム防湿実習（2 歯露出法）			
30. 31. 上顎アルジネート相互実習			
32. トリミング実習			
34. 35. ホームホワイトニング実習			
36. 37. ラバーダム防湿相互実習			
38. 合着材・接着剤について			
39. 40. グラスアイオノマー・リン酸亜鉛セメント 練和実習			
41. グラスアイオノマーセメント練和実技試験			
42. 43. 仮封材・仮着材について			
44. X線基礎知識について			
45. 46. 1年生総仕上げ実習			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	合場千佳子ほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯科材料	末瀬一彦ほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯科機器	末瀬一彦ほか	医歯薬出版株式会社

備考

※この授業は実務教育科目である。
（歯科衛生士として歯科診療の基礎知識と技術について教授する）

歯科診療補助Ⅱ

講師名 高田 梨沙

ねらい

専門的な知識を学び診療内容別の歯科診療補助を身に着ける。

3単位 (90時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 連合印象採得とは 2. 連合印象採得実習 3. 総合試験について、プロビショナルレストレーション 概要・目的・作成方法、レジン取り扱い 4. 既製冠作成方法① 5. 既製冠作成方法② 6. 印象法作成方法① 7. 印象法作成方法② 8. 印象法作成方法③ 9. 混和法作成方法① 10. プロビショナルレストレーション完成 11. 口腔内写真撮影について（画像取り込み法） 12. 口腔内写真撮影（口唇排除・正面撮影法） 13. 口腔内写真撮影（側面投影法） 14. 口腔内写真撮影（咬合面撮影法） 15. 口腔内写真撮影（6枚撮影法） 16. 歯周治療について 17. FOP 治療と使用器材 18. 保存修復とは 19. 直接修復の使用器材 20. タッフルマイヤー型リテーナーの取り扱い 21. 間接修復の使用器材 22. スタディモデル印象採得相互実習① 23. スタディモデル印象採得相互実習② 24. 小児歯科学について 25. 生活歯髄切断法の使用器材	90	講義 実習	総合試験 筆記試験

26. 口腔外科について			
27. 難抜歯の使用器材・各種鉗子			
28. 歯内療法について・麻酔抜髄法の使用器材			
29. 感染根管処置・根管充填・外科的歯内療法			
30. 歯科補綴について（各種補綴物）			
31. 部分床義歯・全部床義歯について			
32. 個人トレー作成実習①			
33. 個人トレー作成実習②			
34. 歯科矯正学について			
35. ダイレクトボンディングシステム・バンド合着			
36. 歯周治療セッティング実習			
37. 小児歯科治療セッティング実習			
38. 矯正治療セッティング実習			
39. 保存修復・歯内療法治療セッティング実習			
40. 歯科補綴治療セッティング実習			
41. 仮着材・合着材練和実習			
42. 歯肉圧排・アルジネート印象相互実習①			
43. 歯肉圧排・アルジネート印象相互実習②			
44. シリコン印象材の取り扱い			
45. 酸化亜鉛ユージノールセメント練和・綿栓作成実習			
46. 口腔外科の器材（麻酔・メス・ナート）について			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論第2版	石井拓男 他	医歯薬出版株式会社

備考

※この授業は実務教育科目である。
（歯科衛生士として歯科治療における診療補助について教授する）

歯科診療補助Ⅲ

講師名 峰松望 江戸美奈子

ねらい

臨床科目を理解し、それに伴う歯科衛生士の診療補助を学ぶ

2単位 (60時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 保存修復学の診療補助 2. 各種窩洞・隔壁について 3. オフィスホワイトニング講義 4. 5. ホワイトニング相互実習 6. 歯内療法学の診療補助 7. 歯内療法の使用薬剤・器材 8. 歯科補綴学における診療補助 9. 各種セメントの基礎知識 10. スタンダードプレコーション・感染について 11. 各種セメント練和実習 12. アルジネート練和実習① 13. アルジネート練和実習② 14. 歯科補綴学分野の器材・平面 15. 保存修復学の歯科診療補助 16. 保存修復学分野の薬剤・器材 17. IPC 法、間接覆髄、直接覆髄 18. 周術期の患者の口腔内の変化 19. 週術期における歯科衛生士の役割 20. 小児歯科における診療補助 21. 周術期の患者への配慮と対応 22. 周術期の口腔内へのアプローチ 23. 歯科矯正学の歯科診療補助（結紮・プライヤー） 24. 周術期の口腔内へのアプローチ 相互実習① 25. 周術期の口腔内へのアプローチ 相互実習② 26. 小児歯科の行動療法について 27. 口腔外科の診療補助	60	講義 実習	筆記試験

28. 抜歯鉗子の種類、麻酔の種類について			
29. 歯周治療の診療補助			
30. 各歯周外科の適応、使用器材について			

テキスト

書名	編・著者名	発行所
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助 第2版	石井 拓男ほか	医歯薬出版株式会社

歯科放射線学

講師名 小野 公之

ねらい

歯科放射線に関する基礎知識、歯科臨床におけるエックス線撮影の影響やその防護方法に関する理解をすることは歯科診療において重要である。講義と実習を通じてそれらに関する十分な習得をねらいとする。

1単位 (20時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. X線撮影の目的及び画像診断の目的を理解する 2. 放射線の物理的特性と生物学的作用について 3. X線画像の形成原理とアナログ・デジタルの特徴 4. パノラマ・エックス線規格撮影・顎顔面領域撮影 5. 口内法X線撮影方法・手順について 6. 口内法画像の観察・失敗例について 7. パノラマX線撮影の手順・観察について 8. フィルム現像方法、保管方法、デジタル画像の特徴 9. 放射線治療法とその副作用に伴う口腔管理について 10. 口内法・パノラマX線撮影の実務を行う	20	講義 実習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科放射線学	松井恭平・合場千佳子 ・白鳥たかみ	医歯薬出版株式会社

臨床検査

講師名 山下亜妃子 早坂かすみ

ねらい

臨床検査とは、臨床検査の目的と意義について、検査の種類、方法、成績の評価について学び、他の職種と連携してのチーム医療としての臨床検査の役割を学ぶ。医療とは医師、歯科医師だけで成り立っているのではなく、看護師や他の様々な医療職種の協力から成り立っていることを知ってほしい

1単位 (15時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 臨床検査概論、画像検査 2. 生化学検査、免疫血清検査 3. 生化学検査、感染症検査、病理検査生体検査 4. 生理検査、一般検査（尿検査） 5. 血液検査、凝固・線溶検査 6. 血液型検査、輸血検査 7. 8. 尿一般検査実習、血液型検査実習	16	講義 実習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 臨床検査	井上 孝他	医歯薬出版

隣接医学

講師名 大久保 直登

ねらい

口腔以外の医学的な知識を身につけることで、病態に対する幅広い視野と知識を有した
 歯科衛生士を目指すきっかけとなるように、身体に関する基礎知識(解剖学・生理学など)と
 病態をリンクさせ、実臨床への応用が可能な医学的知識を習得することをねらいとする。

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 隣接医学とは？ 代謝・内分泌疾患-1 2. 代謝・内分泌疾患-2 3. 消化器疾患-1 4. 消化器疾患-2 5. 循環器疾患 6. 血液疾患 7. 腎・泌尿器疾患-1 8. 腎・泌尿器疾患-2 9. 呼吸器疾患 10. 免疫疾患 11. 感染症 12. 神経疾患、精神疾患-1 13. 精神疾患-2、がん 14. 産科・婦人科疾患・妊娠 15. まとめ	30	講義	小テスト 筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック	橋本賢二・増本一真	医歯薬出版株式会社

卒業研究

講師名 峰松望 高田梨沙 仁井奈美

ねらい

これまでの学習成果の集大成としてグループで研究を行い、研究発表ができるように
プレゼンテーション能力を学び実践する。

1単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 卒業研究の目的 2. 近年の歯科衛生士に求められている業務展開 3. これまでの関連研究の調査 4. 5. テーマの決定 6. 研究対象と方法の検討① 7. 研究対象と方法の検討② 8. 9. 10. 方法に従いデータの情報収集 11. データの分析、まとめ 12. データからの結果・考察 13. スライド作成 14. スライド最終構成 15. 抄録作成	30	講義 演習	スライド発表

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
卒業研究 HAND BOOK	薄井由枝、品田佳世子、白鳥たかみ、 杉原直樹、田村清美、松田裕子	クインテッセンス出版 株式会社

歯科口腔介護

講師名 萱野 美帆

ねらい

訪問歯科診療の流れを学び、応用力を身につける

摂食嚥下について習得し、スクリーニングテスト・機能訓練について学ぶ

口腔ケアの実践力を身につける

2単位 (30時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 訪問歯科診療とは 2. 訪問歯科診療での歯科衛生士の役割 3. アセスメントと口腔ケアの概要 4. アセスメント実習 5. 高齢者の保健指導 6. 口腔ケア講義 7. 口腔ケア指導内容記述について 8. 9 摂食嚥下講義 10. 摂食嚥下スクリーニングテスト 11. 摂食嚥下訓練 12. 高齢者における各評価について 13. まとめ 14. 口腔ケア実習（車椅子） 15. 口腔ケア実習（仰臥位）	30	講義 実習	筆記試験

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション	植田 耕一郎ほか	医歯薬出版株式会社

総合演習

講師名 峰松望 佐藤英樹 佐藤寿哉 宮川博史 長尾敬志 山本陽菜
岡田和隆 高橋大郎 北川かおる 槌谷賢太 坂下美紀 岡川直美 山田寛恵

ねらい

国家試験合格に向けて基礎科目・臨床科目・主要三三教科すべての知識のまとめ・整理を行い歯科衛生士に必要な知識・技術の習得を行う。

4単位 (120時間)

内 容	時間数	授業形態	評 価
1. 歯科診療補助論①：共同動作について 2. 歯科診療補助論②：消毒・滅菌について 3. 歯科診療補助論③：リスクマネジメントについて 4. 5. 歯科診療補助論④：各術式に対するセッティングについて 6. 7. 歯科診療補助論⑤：各術式に対するアシスタント動作について 8. 歯科予防処置論①：歯周組織について 9. 10. 歯科予防処置論②：予防的歯石除去法（手用スケーラー）について 11. 歯科予防処置論③：超音波・エアスケーラーについて 12. 歯科予防処置論④：PMTC について 13. 歯科予防処置論⑤：アクシデント時の対応について 14. 15. バキューム・器具受け渡し実習② 16. 17. 歯科診療補助論⑥障害者・高齢者歯科治療時の診療補助 18. 19. 歯科診療補助論⑦矯正歯科治療時の診療補助 20. 21. セメント・印象練和 22. 周術期口腔機能管理事前講義 23. 周術期口腔機能管理とは 24. 周術期口腔機能管理に必要な知識 25. 口腔ケアの基礎・嚥下訓練 26. 口腔ケア実習①. 27. 口腔ケア実習② 28. 29. 基礎科目①解剖学 30. 31. 基礎科目②生理学・口腔生理学 32. 33. 基礎科目③微生物学	120	講義 実習	筆記試験

34. 35. 基礎科目④栄養学・生化学			
36. 37. 基礎科目⑤口腔衛生学			
38. 39. 基礎科目⑥衛生学・公衆衛生学			
40. 41. 基礎科目⑦歯科衛生学総論			
42. 43. 歯科診療補助論⑧口腔外科治療時の診療補助			
44. 45. 歯科診療補助論⑨保存修復・歯内療法時の診療補助			
46. 47. 齲蝕予防処置①齲蝕予防処置とは			
48. 49. 齲蝕予防処置②フッ化物について			
50. 51. 齲蝕予防処置③フッ化物計算			
52. 53. 齲蝕予防処置④齲蝕活動性試験について			
54. 55. 歯科保健指導①指数について			
56. 57. 歯科保健指導②ライフステージ別患者指導方法			
58. 59. 60. 歯科診療補助論⑩摂食嚥下			

テキスト

書 名	編・著者名	発 行 所
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論	合場 千佳子ほか	医歯薬出版株式会社
歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論	高阪 利美ほか	医歯薬出版株式会社
その他臨床科目の教本		

臨地・臨床実習Ⅰ

臨地・臨床実習Ⅱ

ねらい

臨床実習要綱に基づく隣地臨床実習（別に定める）